



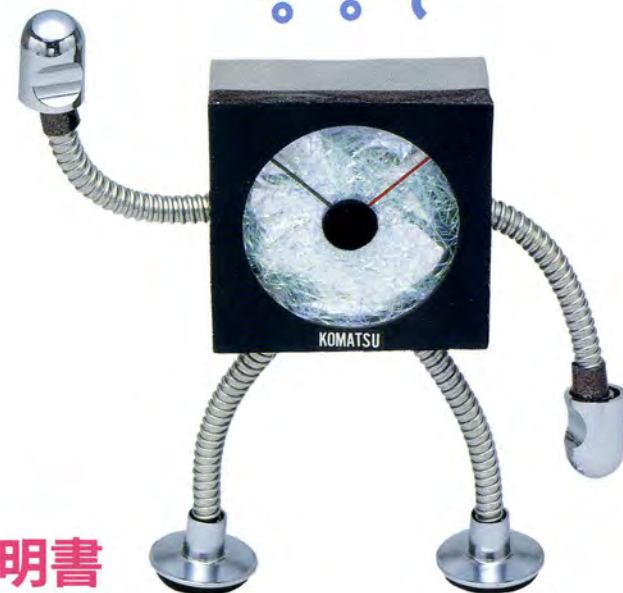
インプリメント技術で未来へ

小松電機産業株式会社

KOMATSU ELECTRICAL INDUSTRIES

入・社・案・内

おじあもじん
KOMATSUでも
おじあもじん。



会社取り扱い説明書

就職する前に、ご理解いただきたい注意点や、小松電機のあらましと特長について説明します。

技術力

KOMATSUブランドを生み出す
開発能力。

あったかいハート

「人を思いやる」気持ち。
製品にも、社員にも、地域にも。

行動力

ビジョンを先に大きく発表。
不可能と思われるものも、
可能にしてしまうパワー。

やわらかな発想

常識にはとらわれない、
ものの見方、発想の集団。

ロケーションの良さ

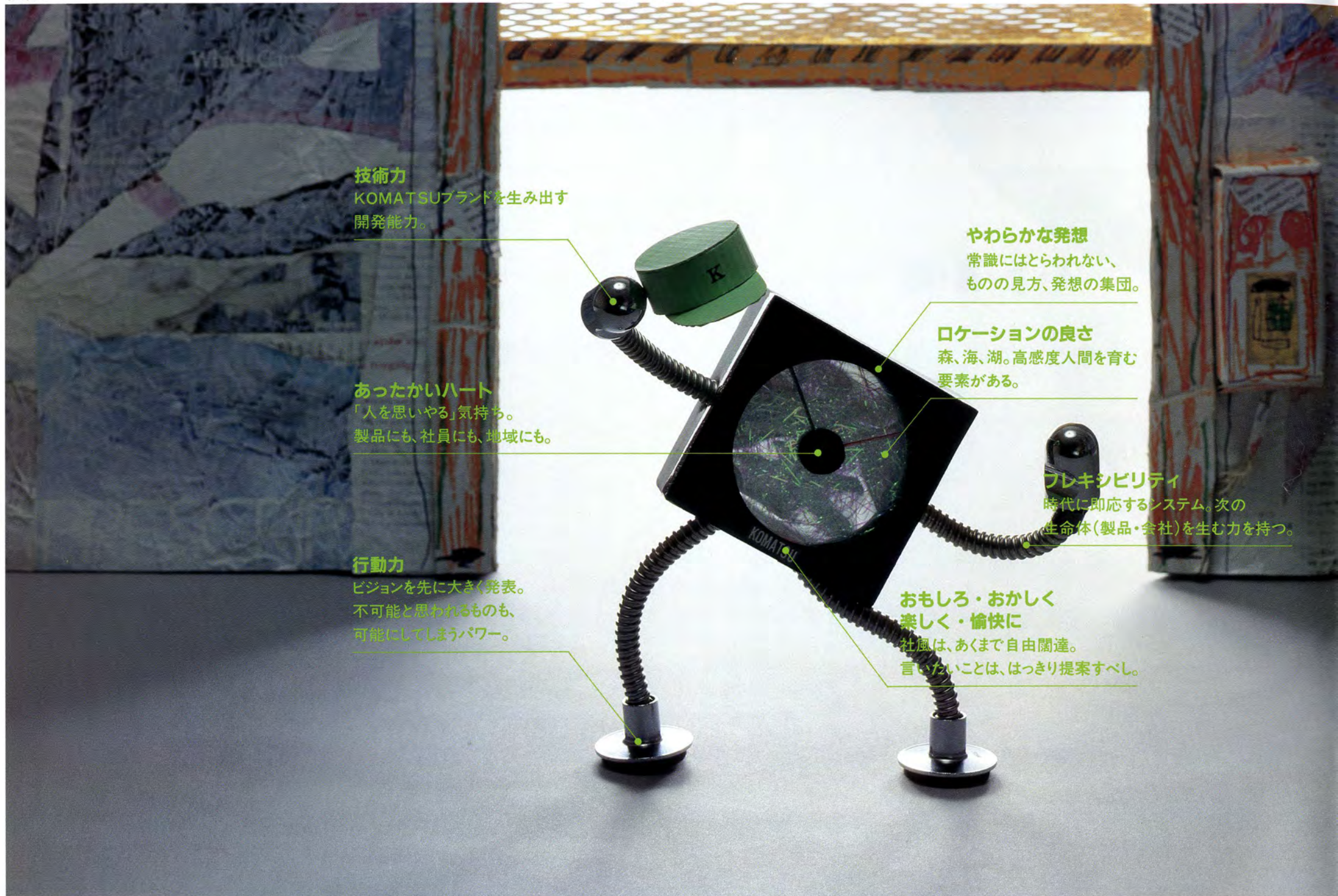
森、海、湖。高感度人間を育む
要素がある。

フレキシビリティ

時代に即応するシステム。次の
生命体(製品・会社)を生む力を持つ。

おもしろ・おかしく 楽しく・愉快地

社風は、あくまで自由闊達。
言いたいことは、はっきり提案すべし。



図解 小松電機産業のしくみ

楽しく生きるためには夢が必要です。

それは今にも手が届きそうだったり、はるか彼方にあったり。一人ひとり夢のカチはさまざま。小松電機産業は社長を中心に、夢を夢だけで終わらせず、希望へ、そして目標へかえる集団です。ですから、社員は自分の目標にむけてイキイキ、楽しく生きています。自分の楽しさはとなりの人も楽しくします。周囲に「おもしろ、おかしく、楽しく、ゆかいに」の輪が広がるのです。もちろん互いに切磋琢磨、叱咤激励しながら。

そこには上司・部下の関係も男女の別もありません。あるのは一個の人間それぞれの役割なのです。

そして、私たちは開発した商品を通じてご縁のあった方々とともに、理解し合うことの喜びと大切さを認識しています。

「社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう」を社としてしている小松電機産業。ぜひとも、あなたの夢を私たちとともに実現させてみませんか。

積極的なみなさんを期待しています。



▲ 本社
▶ 熊野大社事業所

● 地方にあるテクノロジーを知っていますか。

ハイテクノロジーから取り残されたと思われがちな島根。ここで豊かな水、肥沃な土、おだやかな太陽 — 自然という最高のテクノロジーをバックボーンに新しいテクノロジーが誕生している。そのメインとなるのが「シートシャッター・門番」(超音波センサーを組み込んだ自動開閉式のビニールシート製シャッター)だ。県下初の無人板金工場「フレキシブル生産システム」から生み出されている。また、水道計装システムの分野では、県下の約50%の市町村で採用していただいている。業務内容は県下の法人で十指に入る充実ぶり。平均年齢27才のパワーと楽しさ、成長力にあふれる企業なのだ。

都会でなくても、できること。地方だからできる楽しさ。理屈じゃなく仕事を通して体験しませんか。

● 逆リゾートを知っていますか。

白いヨーロピアン風の潇洒なコンドミニアム、海に。山に…。リゾートブームと言えるほどの昨今。都会の喧騒からの逃亡が、帰ってきてみれば、疲労感だけが残ってしまう。なんのためのリゾートでしょうか。何か無理のあるスタイルのような気がします。

では、日本人に適したライフスタイルって何か？

それは「逆リゾート」ではないでしょうか。暮らしては、地方で。遊びと情報収集は、都会で。つまり、都会をリゾート地として認識、利用することです。

「小松電機って、頻繁に東京に行けてうらやましい」の声をよく耳にします。それほど、都会の空気にもふれる機会が多いのです。

結構、賢い生き方のひとつといえるかもしれませんね。



会社のあゆみとこれからの夢について説明します。



夢をえがく

●魔法の壺づくりは、 10万円と中古ワゴン車一台から。

「事業とは魔法の壺をつくるようなもの。黄金がコンコンと湧き出る仕組みをつくること」小松昭夫社長は喝破する。社長は三菱農機の前身である、佐藤造機中央研究所のエンジニアを経て、昭和48年、10万円と中古ワゴン車一台、工具箱で、小松産業(現在の会社の前身)を興した。「カネもなければ、人もいない。機械と名がつけば何でも修理した」と当時を振り返る。とくに、プラントの配電盤や電気工事の注文に多忙をきわめた。オイルショック時にあっても、給水施設用自動制御計装システムを開発。現在の社業の礎を着々と固めた。



▲ 遠方監視システム
▼ シートシャッター「門番」



代表取締役社長
小松 昭夫



●全国展開へ。

一介の地方の小さな会社から、全国展開の企業へと成長するきっかけとなったのは、85年に開発したスピード自動閉鎖シャッター「門番」だ。これは、工場や倉庫などの出入口に設置。車や人が近づくと超音波センサーが作動。ビニール製のシャッターが「ひらけ、ゴマ」のごとく自動開閉する装置。従来のシャッターのイメージをくつがえす新しい商品で注文が殺到した。本格的な販売にあたっては、大手の文化シャッターと提携。一躍、全国展開のステップに。島根の知名度のない企業がシャッター業界に認知された。さらには、台湾、韓国にも総代理店を開設。世界のマーケットを歩みはじめた。

●次なるKOMATSUブランド。

「門番」につぐ自社ブランドは、上下水道の遠方監視装置。水源、処理場の運転状況を居ながらにして把握することができるものである。従来の上下水道の計装装置は東芝、三菱などの大手メーカーが主力。大規模なものがほとんど。そのため、水源が散在する規模の小さな地方自治体には、コスト面や性能過剰で不向きであった。そこで、余分な機能を極力排除して、市町村の財政でも十分とつけられるもの。小規模の上下水道に最適な規格の装置を開発したのだ。現在、成長商品として確実に実績をあげている。

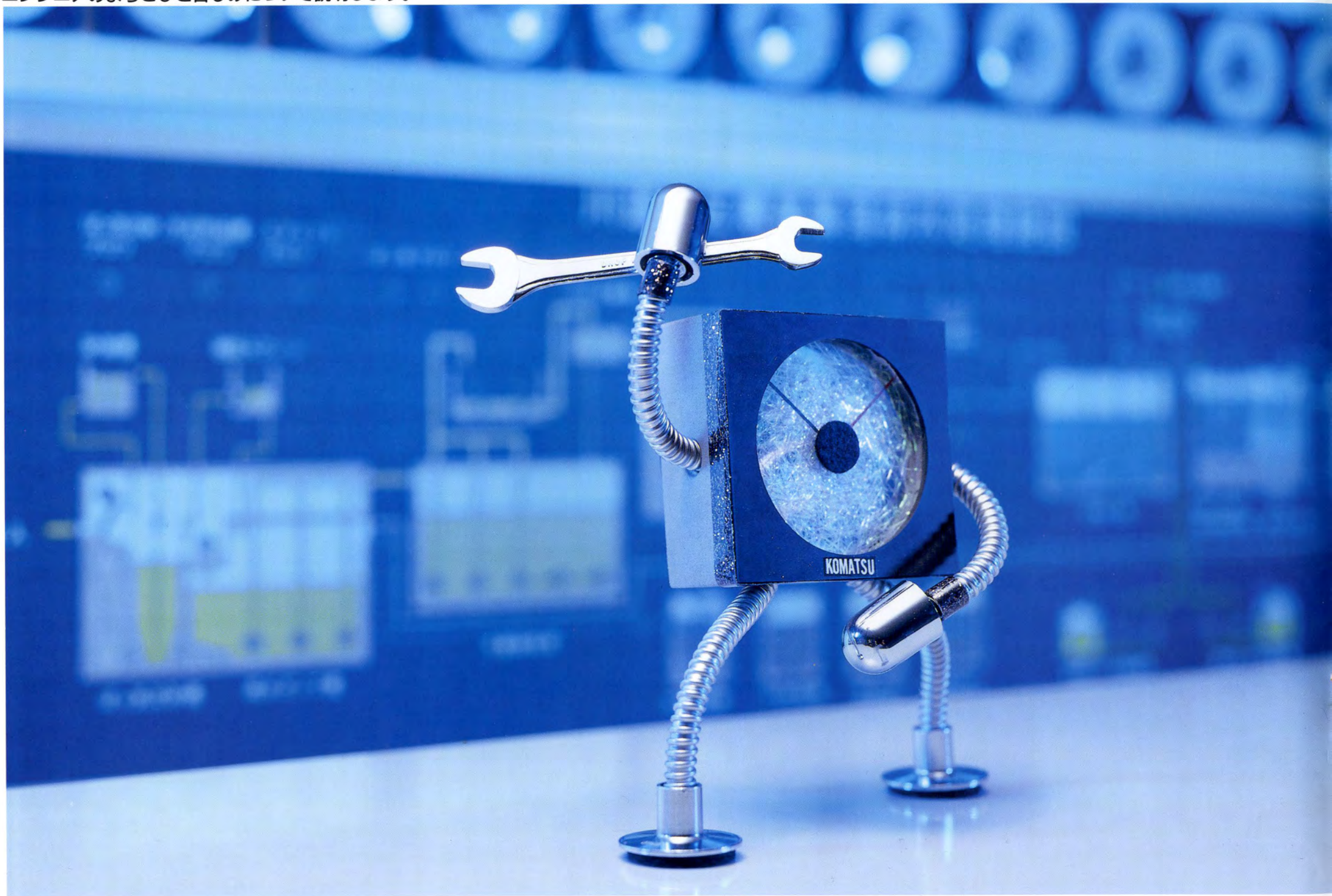
●組織は有限。企業とは進化すべきもの。

「会社とは進化すべきものである」と小松社長は考える。企業とは社会に対してひとつの役割がある。これを果たしたなら、今までの存在した意味は終焉をむかえる。つまり、ひとつの成長過程をクリア。次のテーマへのチャレンジが始まる。さながら、ひとつの生命体が、次の生命をつくることに例えることができよう。小松電機の場合、シートシャッター「門番」の役割は、次のオリジナル(製品)を生み出すためのものであり、新しいエネルギー循環への方法論といえる。

●森をつくる、という考え方

やせた土壤に一本の木がある、と仮定する。成長を促すのは、太陽と水。緑は、やがて葉が落ち、土の養分となり、土地が肥沃にかわる。地力がつく。このエネルギーが次の新しい木を生み、育てる。自然の営みのくりかえしが、林をつくり、森になる。強い風にも耐えることができるのである。企業成長は、まさにこの原理に他ならない。小松電機産業の最初の木は、配電盤。計装システム。そして、テクノロジーという養分と人の五感を見つめたやわらかな発想が加わり、シートシャッターという林をつくりだした。高付加価値の林づくり(=製品開発)は、止むことはない。サイエンス・バイオテクノロジー・アメニティ・情報ネットワーク・メカトロニクス・マーケティングにと、その裾野は広がる。夢のふくらむ鼓動が聞こえてきます・・・。

エンジニアのよろこびと苦しみについて説明します。



開発するよろこびをほんとうに体感できる仕事の数々があります。

技術を追究する



■小松電機ワーキングフロー



開発本部
S62年入社

永島 強志

想像から創造へ

余暇の時代とか、趣味に生きる。などと巷では喧伝していますが。仕事でも遊びでも好きなことをやる。目的意識をもってやり遂げることが、大切では。

子供の頃から機械いじりが好きだった私。規模は小さいながらも、設計・開発部門がある小松電機は、自分を託すのに最適だと考えています。

私の所属する開発本部では、経営企画からのテーマをうけて、スタッフによるミーティングを行います。ここで、ざっくばらんに製品に対する意見を交換します。いわゆるプレーンストーンリングです。日々考えているプランを口にするこの時は、緊張感と期待感が高まります。開発に携わるよろこび、満足感を味わえるのです。

なんとか新型のシャッターに挑戦して、会社に貢献したい。という気持ちが仕事に対する原動力に。

「シャッターの材質を考えたり、ファスナーでつないだら」なんて想像が楽しいんです。

CADを駆使しての図面整理も重要な仕事のひとつ。操作方法はちょっと厄介ですが……。厳しくやさしい先輩のアドバイスをうけながら。図面が完成した時の充実感は、ひとしお。といったところ。

今の私にとって、仕事も大切な時期ですが、人間性を磨くことも怠るわけにはいきません。

技術屋って、どうしても思考が偏りがち。バランス感覚を養うためにも、読書は大切なビタミンです。大好きな武将・武田信玄の、統率力のすばらしさ。戦略の巧みさに、とくにこころひかれます。そんな私のプライベートの目標は、男女を問わず(?)、多くの友達をつくること。会社の人とも、地域の人とも、「おもしろ、おかしく、楽しく、愉快に」。そして、新しい会社を興すくらい技術とパワーを身につけたいな。



製造部電装品組立
S60年入社

岸本 典弘

ディテールまで真剣

人生が自分の思い通り順風満帆にいったら……。でも、人間って苦難があるから、それを乗り越えたときのよろこび、成長があるのでしょう。

私も実際のところ、この会社は第一志望ではなかったのです。希望叶わず、学校の先生に将来性、成長性を、と薦められて、入社しました。

思えば、はや6年。今は、シートシャッターの電気関係のすべての部品をつくっています。

ピンセットでつまむような、非常に細かい部品をセットしたり、複雑な配線をしたりと、忙しい毎日。

目には見えない電気が相手の仕事。接続する部分ひとつひとつが重要。ですから、ネジ一本までに全神経を集中させなければなりません。

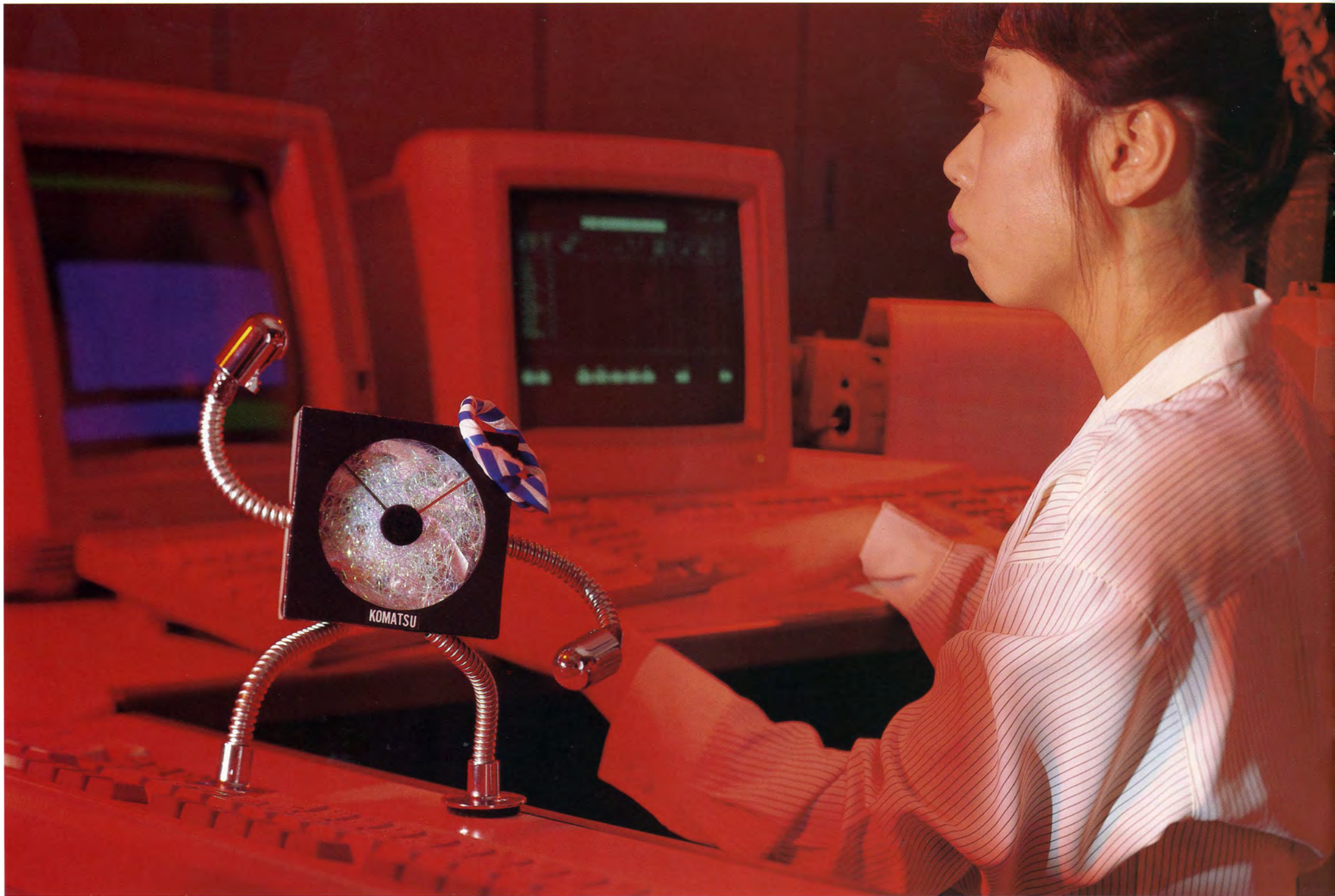
正直言って、時にはミスも。

シートシャッターの押しボタンスイッチの上昇と下降の配線をリバーズにつないでしまって。上昇を押すと下がってしまい、冷や汗タラリ、なんてこともありました。

それでも、この仕事をする糧となっているのは、シートシャッターをとりつけたお客さんからの「工場があったかく、明るくなったよ」、と感謝の声を聞くからです。そんな充実感から、さらに私のチャレンジしたい夢は、新しいモノをつくる設計、開発です。シートシャッターとは一味違う、一般家庭に普及するような製品をうみだすこと。自分のクリエイティビティを製品に反映させたいですね……。

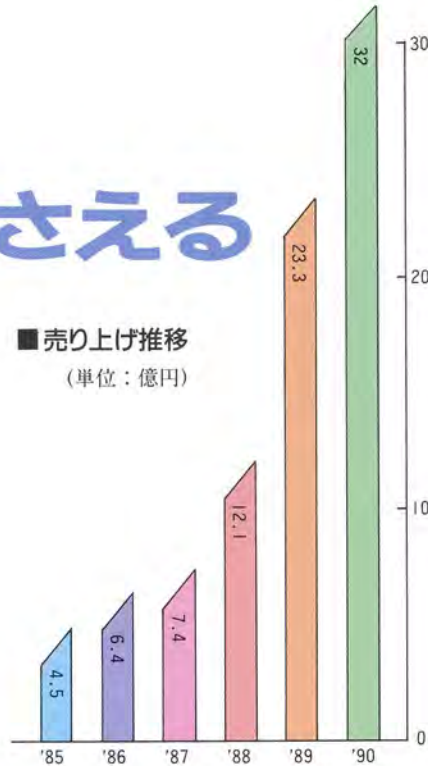
そして、休日は大切なリフレッシュタイム。日本海でのスキューバダイビングは、好きなサカナたちと遭遇できる自由空間。そろそろ、いっしょに潜るパートナーが欲しいなあ。では、やる気のある方(年齢に関係なく)、好奇心120パーセントの人、いっしょに働くことを楽しみに待っています。

やはり、会社は人が基本であることについて説明します。



会社をささえる

■ 売上げ推移
(単位：億円)



- 社員数 62名(男性43名・女性19名)
- 平均年齢 27歳
- 本社のある八雲村・人口増加率：県内No1
・ 県庁所在地 松江市より車で15分



シャッター営業部主任
H1年入社
関口 淳一

人とめぐりあうよろこび

30歳を目前にして、自分の生き方を振り返った時。このままで本当に良いのかどうかを考えました。もっと違った生き方があるのではないかと――。

小松社長の話は、自己を省みる部分で、感銘、共鳴するところが多かった。

群馬で生まれ、東京での会社生活。そして、女房の実家、島根へ。いわゆる、「Jターン」。社長いわく、「島根という純粋培養の地に、異質な血が入り込み、地域活性につながるはず。Jターンは、大歓迎」。うれしい言葉でした。

初めて工場のシートシャッターを見た瞬間。「これは、おもしろい。絶対に売れる。この会社は伸びる」と直感。「門番」に惚れて入社しました。

仕事は、好きなシートシャッターを誇りを持って売っています。全国から寄せられる発注書の処理。営業上の問い合わせの対応。相談、クレーム処理。果ては簡単な修理まで。仕事のスタンスは広い。その分、お客さんから感謝された時のよろこびは大きいですね。

北海道から九州まで、代理店まわりも重要な仕事。お客さんからの声の収集とともに、言葉や価値感の違うさまざまな人たちとの出会いの場。自分の見識を高める絶好の機会であり、生き方のプラス作用に。営業みょうりにつきますね。

そして、私をささえる大きなバックボーンは、高校から続けている弓道(四段)。奥深く、自分がどこまで到達できるか試すことができるのです。精神の安定にもつながります。自己研鑽に最適といえそうです。

シートシャッターの注文が殺到するなか、施行のスケジュールに四苦八苦の毎日ですが、独力で家も手に入れ、自分の内面も少しずつ向上しているかな、と実感できる今日このごろです。



総務部
S62年入社
細木 由里子

笑顔とところを伝える

総務部で会社の窓口を担当している細木です。私の仕事と会社の様子をみなさんに紹介させていただきます。

とにかく、電話の本数が多くて、片時も受話器をはなせない感じ。その数たるや、日に100本は軽く超えます。会社に何か新しい動きがあると、それにともなって、電話のお客さまも変わります。会社が成長しているなあ ― と実感します。

これからの目標は、単なる電話応対だけでなく、あるレベルの技術的な知識を備え、専門的な質問にも的確に応えられるようになること。そうなれば、仕事の幅は広がり、営業のアシスト、フォローにも。女性のさわやかで、しなやかな窓口をつくるのが、課題です。

この会社のいいところ ― いろいろありますが、特筆すべきところ、それは仕事において男女の区別なく、思うように力が発揮できること。先日、韓国の企業との調印式で案内役をおおせつかりました。身振り、手振り、知っている限りの英語を駆使して、社長夫妻のお世話、美術館をご案内しました。

そして、お別れの際、社長夫人から「よくお世話していただきありがとうございます」とご自身の身につけていらしたブローチをいただいていた。――鳥肌がたつほどうれしかった。これが心の交流なんだと感激しました。

また、結婚後も仕事が続けられる環境と配慮があることも、アピールできるポイントです。

とにかく、青くなったり、赤くなったりしながら、ワクワク成長する毎日。

そんなワタシのオフは、好きな映画をゆっくり観ること。とくに、好きなのがちよっとテレますが、ラブ・ストーリー。「風と共に去りぬ」がワタシの中のベストワン。それと、料理のバリエーションも広げたいな。

教育・研修と福利厚生について説明します。





パワーをたくわえる

●基本はゆっくり、確かに。 教育システム

▽入社前研修

社会人となるための心の準備です。難しい話でなく、顔合わせが目的。

▽入社式・オリエンテーション

さあ、今日から社会人。朝寝坊はご法度。

▽基礎研修

実際の仕事場、工場の各部門での学習です。どんなしくみで製品がつくれ、会社が機能しているのかを体験。同時に、社長による人間形成セミナーを行います。(2～3ヵ月)

▽O. J. T.

配属が決まると、各セクションの先輩社員が、実際の仕事をしながら、教育するO.J.T.(On the Job Training)を開始。ひとりだちまで、丁寧、親切に指導します。



▼バレーボール大会



▼社宅



海外研修は、ありがたや。

●生涯教育と各種教育制度

社会人生活を有意義なものに。そして専門教育を充実させるために、生涯教育という視点にたった各種の教育制度を実施。各種実務講座、通信教育、自己啓発教育、と積極的に導入しています。



●海外研修

アメリカ、カナダ、ホンコン、シンガポール、ヨーロッパ各国へ。毎年若手社員を派遣。さまざまな文化、考え方を吸収します。

Offは思いっきり遊ぶに限る。

●独身寮・社宅制度

Jターンで島根に。そんな人たちへ、マンションを用意。ほんの少しの自己負担で優雅な暮らし。

●女性が主催。ぶどうの会

女性社員が毎月、イベントを企画・運営。クリスマスパーティー、バレーボール大会、卓球大会etc・・・。女性が主催するということは、当然男性の積極的参加になりまして・・・。

●みんなのエスティマ

ワインレッドボディ、フル装備のエスティマは、offのスキー、海水浴、大阪や広島への展示会へでかける時、活躍。みんなの人気者だ。どんどん利用しよう。

●クラブ活動

野球、卓球、スキー、陸上とカラダおもしろい、リフレッシュ。駅伝にもチャレンジするのだ。



小松電機産業株式会社

〒690-21 島根県八束郡八雲村東岩坂180
TEL 0852-54-1166(代) FAX 0852-54-1769
〔東京〕TEL. (03) 3771-7206
〔大阪〕TEL. (06) 462-0358
〔名古屋〕TEL. (052) 661-7224

魅力はつきないけど…。

小松電機の様子は、この小冊子でご理解いただけただけはず。
そこで、八雲たつ、出雲の国の横顔を、わずかですがご紹介します。

()は会社から車での所要時間

●^{しんじこ}宍道湖

海水と淡水が混ざり合う汽水湖。四季折々に美しい景観と豊かな漁場が自慢。すぐれた人材を産み出すバックボーン……。
(10分)



●^{だいせん}大山

春は新緑。夏はキャンプ。秋は紅葉。そして冬はスキー場として、一年中豊かな自然の中でリラックスできる。
(40分)



●松江市

人口14万人。面積176.14 km²。水の都、松江市。城下町のたたずまいを残しながら、新しい時代をひらく産声が確かに。
(15分)



●^{たまつくり}玉造温泉

まが玉の欄干がシンボリックに横たわる玉造温泉。『出雲国風土記』にも記された山陰路最大の温泉。
(10分)

